

# 地域医療連携担当部長の ごあいさつ

地域医療連携担当部長兼皮膚科部長 足立 厚子



当院が旧県立加古川病院からH21年11月に神野の地に新築移転してから3年がたちました。職員自身がかかりこの新しい環境になじみ、開院当初に比べ地域の患者様を多くかつスムーズに受け入れることができるようになりました。図1は平成24年4月から25年2月末までの外来受診患者様の居住地内訳です。加古川市と加古郡で76%を占めますが、次いで多いのが、高砂市、明石市、姫路市です。

図2は同じく平成24年4月から25年2月末までの入院患者様の居住地内訳です。加古川市、加古郡の合計は69%、高砂市を合わせて76%となり、残り4分の1はこの3市以外の患者様で、入院患者様は外来患者様に比べて遠方の方の割合が多いということになります。

今年度から当院はドクターヘリの基地となり、より広い地域から重症の患者様を受け入れることができるようになる予定です。

初診患者様の紹介率につきましては、平成24年度84.3%と表1に示すように、順調に伸びています。地域の医療機関の先生方との連携のおかげです。また平成25年4月から、加古川二次救急の輪番制にも年14回ではありますが、参加させていただくことになりました。より多くの急性期の医療を必要とする患者様が、当院を必要として下さることは非常にありがたいことです。一方で慢性期になられた患者様をなかなかスムーズに逆紹介ができていない現実があります。表1に示すように、平成24年度の逆紹介率65.2%と伸び悩んでいます。入院患者様、外来患者様を日々診療する中で、いかに早く良い状態で有意義な連携のもとに患者様たちを地域にお返しできるかが今後の課題であると考えております。そのためには診療、看護、リハビリ、生活支援など全ての場面におけるより密な医療連携を確立し、様々な医療機関がお互いの知識、技術を相互に認め合い、共有できることが必要であると痛感しております。御協力のほどよろしくお願いいたします。

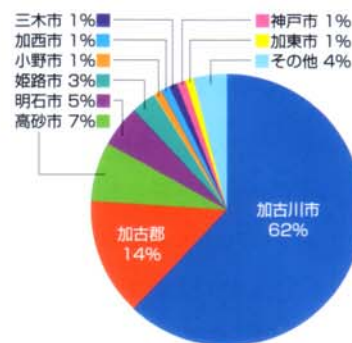


図1. 地域別外来患者数 (H24年4月～H25年2月末)

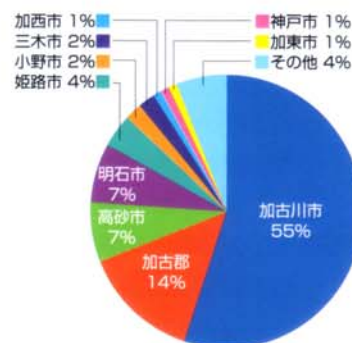


図2. 地域別入院患者数 (H24年4月～H25年2月末)

表1. 紹介患者への医療提供及び他院への患者紹介の実績

	平成22年度	平成23年度	平成24年度 (H24.4.1～H25.1.31)
紹介率	77.2%	81.9%	84.3%
逆紹介率	57.1%	67.9%	65.2%

当院ではH24年7月に患者相談支援センターが発足しました。そこには当院受診中の患者様のみならず、他院受診中の方、まだ医療機関を受診していない方、患者様御本人のみならず、御家族も相談に来られます。内容も多岐にわたり、どこの病院の何科を受診したらいいかという初歩的なことから、がん相談についてはがん専門看護師が対応するような専門的な内容が含まれます。相談支援センターに所属する我々自身が週1回のカンファランスをしながら、どのような事が問題なのか?どのような職種が一番適切な回答をもっているかなどを勉強しながら、そのQ&Aを財産として蓄積し、成長して、患者様へのより迅速な、より良い対応へと還元していきたいと考えています。これについても地域の医療機関との連携が必須です。御指導、御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

また、当院では外来患者様の医療機関からの初診予約につきまして、開院以来のファクス予約に加えまして、2011年12月よりインターネット予約を導入しておりますが、いまだファクス予約の方が多く、予約をお取りするのにお待ちいただいている現状があります。インターネット予約ご利用の先生は、兵庫県立加古川医療センターホームページwww.kenkako.jpの中の医療機関のみなさまへ～インターネット予約へとお進みください。登録医の先生方は既に配布させていただいているID、パスワードを用いてお持ちのパソコンから24時間ログイン可能、初診予約をおとりいただくことが可能です。ID、パスワードが不明の登録医の先生方は地域連携部までお問い合わせください。新規登録の方法につきましては、ホームページ案内を御参照いただくか、下記電話番号までお問い合わせください。どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携部 予約担当

受付時間 午前9:00～午後5:00

直通電話 **079-497-7011** FAX **079-438-3756**



## 「スポーツ整形外科」のご案内

リハビリテーション科 柳田 博美

リハビリ科では整形外科との連携/指導のもと、成長期スポーツ障害やクラブ活動で生じた外傷の中で、早期の手術適応にはならない「アスリート症例」を対象とした診療を行っています。

これまでご紹介いただいた症例では、オスグッド-シュラッター病、腸脛靭帯炎、鷲足炎、ジャンパー膝、シンスプリント、グロインペイン等慢性的な筋拘縮が原因となることが多い印象です。これらに対し当科では、時期に応じた消炎処置やストレッチ、筋力強化、患部外トレーニング等を含めたアスレティックリハを提供しつつ早期のスポーツ復帰をめざしています。

スポーツに関わる様々な疾患の診断や治療にお困りの際は、どうぞお気軽に当院リハビリ科柳田までご相談下さい。なお、ご紹介は月曜と水曜の15:00-16:30の枠で承っていますが、出来るかぎり柔軟にご要望に応じますので、詳しくは地域連携スタッフにお問い合わせください。よろしくお願い申し上げます。



## メタボ対策に『昼リハ』はいかが？

微笑みと癒しの発信基地、リハビリ科スタッフ一同

昼休み(12:00~13:00)のリハ室を職員の皆様に開放しています。

新病院移転を機にリハビリ科は、生活習慣病センターの構成/支援部門のひとつとして大原先生、飯田先生、日野先生のご指導の下、糖尿病教室や肥満外来の患者様方に運動療法を実施してまいりました。様々な制限がある中、3台のエアロバイク、トレッドミル、Nu-STEPといった最小限の有酸素器機を備えることができ、毎日フル稼働しています。

自身の健康のため、以前より数名のリハビリスタッフたちがお昼休みに筋トレやボール遊びをすることがありましたが、徐々に他部門の方々がお見えになるようになりました。週に何回かでも数ヶ月お続けになりますと、ウエスト部分が見事にくびれ!そして見違えるように美しくなる方もおられます(苦笑)。まだまだ余裕がありますので、これを機に院内の皆様にお知らせしようということになりました。



おすすめは15分程の有酸素運動と体幹のストレッチ、健康的な汗は様々なストレスを軽くします。理学療法士がちょっとした体幹筋トレのコツや簡単なストレッチ等もお教えます。気軽にお声をかけて下さい。

今まで何をやっても長続きせず痩せられないあなた、「忙しくて、時間がなくて、」と言い訳ばかりのあなた、血液検査のデータが思わしくなかったあなた、病院というステージで健康と癒しを提供する立場の私どもがまず健康な心とカラダを持ちましょう。そう、みんなで始めるなう!



## 朝食に焼きたてパンを 配膳しました

栄養指導課 管理栄養管理士達



東の空がやっと明るくなってきた早朝に地下1階の栄養指導課調理室から初めての新しい薫りが漂って来ました。2台のスチームコンベクションオープンから香ばしい薫りのするパンが焼き上がり、時間限定パン工房になった瞬間です。

普段は前日にパン工場から製品を購入して朝食に配膳致しますが今回はサービスの一つとして焼き立てパンを配膳しよ

うとスタッフ一同で検討してやっと実現となりました。最近パン食ブームでもあり、いろいろなパンのお店をTVに雑誌にと紹介される程に人気は高まり、旅先のホテルでも朝食は焼き立てパンを食べ放題として出すところも増えて来ております。

当センターでは朝食をさらに充実しようと昨年に朝食の主食はパンが良いですか?それともご飯が良いですか?とアンケート調査をしたところ、パンが良い74%,ご飯が良い26%の回答が得られました。ごはんは昨年秋の新米入荷時より兵庫県産コシヒカリを昼食、夕食に配膳するようにし、好評を得ております。

毎朝に配膳されているパンは少し温めてフワツとしている状態ですが「焼いたパンを食べたい」という声も多く有りましたので、食感的にも両方楽しんでいただけるようにモチッと感とサクッと感のする2種類を、そして食べられる時に焼き立ての薫りも味わって戴こうとお皿に蓋をつけました。

今後は種類も変えたりして「朝食が待ち遠しいです」というお声がたくさん上がるように、入院中でのお食事を美味しく味わって戴きたいと思っています。焼き立てパンは隔週になります。是非、薫りも味わって戴きたいと思ひます。





## ボランティア総会

担当 看護部次長 前田 あけ美  
看護部次長 江角 美紀恵

当センターで活動されているボランティアさんは、「一般ボランティア」「緩和ケア病棟ボランティア」の総勢約60名です。また、今年度は加古川市老人大学院から月1回15名程度の方々も交代で活動に参加してくださっています。「一般ボランティア」は、外来の受付案内・看護用品作成・病院敷地内の整備・縫製作業などです。「緩和ケア病棟ボランティア」は、緩和病棟で患者さんの話し相手・配膳・配茶・季節の飾り付け・花の手入れ・イベントのお手伝いなどです。

今年度、加古川医療センター「ボランティア規定」と「ボランティア表彰規定(300時間・1000時間)」をもとに、新病院開院後継続して活動してくださっているボランティアさんを対象に、第1回ボランティア総会を開催し、日頃の活動を写真などで紹介しながら、院長をはじめとする職員から感謝を伝えました。そして、表彰は、300時間以上の活動をしてくださっている7名の方に、院長から感謝状が贈呈され、ボランティアさんは厳粛な雰囲気感謝状を受け取られていました。

講演は、元県立病院看護師長で東日本大震災ボランティアとして2年間活動されている「NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク 土江孝子先生」に体験談を話していただきました。ひとりの人としてボランティアをとおして大きな学びを得ているお話に、私たち職員も共感しました。最後に、ボランティアさんと職員がテーブルを囲み、軽食を交えながら普段の活動の内容や、ボランティアさんからのご要望などをお聞きしながら、コミュニケーションタイムを行いました。それぞれいろいろな話をされ、病院職員とのなごやかな時間を送ることができました。

ボランティアさんは、最後に口々に「楽しかった」と笑顔で私たちに声をかけてくださり帰って行かれました。今後ともよろしくお祈いします。



## 編集後記

気候も暖かい日が続くようになり、梅や菜の花が咲き、道端の草花も伸び伸びと、春の風にゆらゆらと揺れうれしい季節です。院内は年度末を迎え人の異動の時期でもあり、その準備に追われ毎日忙しい日々が続いています。

4月から医師の異動もあり、外来診療表が変わります。しばらくご迷惑をお掛け致しますがよろしくお祈い致します。